

# 学びを見取る・支える授業づくり ～つまずきを生かした指導の工夫～

西部教育局 お役立ち情報  
令和8年5月号



令和8年2月鳥取県教育委員会作成の「学びの改革推進プラン」では、令和8年度の重点として、教師の見取りと支援を重視した、指導と評価の一体化の徹底及び基礎学力の定着を挙げています。児童生徒が学習内容を実実に習得するためには、教師の「見取り」の質を高め、それに基づいた適切な「支援」を行うことが不可欠です。

## 1 【事前の準備】つまずきの予測を「授業のデザイン」に組み込む

〔考え方〕児童の既習事項の定着状況等を考慮し、つまずきやすい箇所を予想した上で、具体的な支援の手立てを授業展開の中に盛り込んでおくことが重要。

〔事前の想定〕子どもの反応やつまずき（誤答、多様な考え方、思考の停滞する場面等）を想定する。

〔支援の準備〕想定したつまずきに対し、どのタイミングでどのような支援を行うか決めておく。



授業は事前の構想で質が大きく変わります。「事前の想定・準備」が大切です。

## 2 【学習状況の把握】見取りは事実に基づいて捉える

〔考え方〕児童生徒が学習の過程で実際に示した姿（活動の様子やノート等の記述内容、問題解決の様子等）から収集して判断することが重要で、評価規準を踏まえ指導の補完や修正につなげる。

〔具体例〕手が止まっている、同じ間違いを繰り返している、発言が変化している等に注目する。



適切な見取りによって、個に応じた支援が可能になります。

## 3 【支援の工夫】児童生徒が自ら解決に向かうよう促す

〔考え方〕児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、教師が、指導方法、教材や学習時間等の柔軟な提供・設定等を行うことが大切。

〔具体例〕「前に学習した内容を使えないかな？」と問い、既習内容をふり返らせる。図や例等を示す。



教え込むのではなく、児童生徒の学びを支える関わりを心がけましょう。

## 4 【振り返り】児童生徒が自らの学びを自覚できるように設定する


〔考え方〕児童生徒自身が「何ができるようになったのか（わかったか）」を自覚することが重要。

〔具体例〕「何ができるようになったのか」「今後に生かせそうなこと」等を書く。



振り返りを次の学びをつくる材料にしましょう。

参考：子どもが伸びる授業づくりプロジェクト（小学校算数）の実践から  
（米子市立五千石小学校 第5学年学習指導案より）

<p>〈自力解決〉 3. 見通しをもとに、異分母分数のたし算について考える。</p>	<p>○ まずはたし算計算と説明が確認できているか確かめてみる。</p> <p> <b>B・Cの児童の様相とその手立てが具体的に示されています。</b></p>
<p>C: <math>\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{2}{5}</math>と、通分せずに分母と分子をそのままたしてしまう。</p>	<p>☆ 見通しと照らし合わせ、<math>\frac{2}{5}</math>では明らかに少なすぎるということに気づかせる。</p>
<p>C: <math>\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{1}{6} + \frac{1}{6}</math>と、分母のみ最小公倍数にして、分子がそのままになってしまう。</p>	<p>☆ 前時までの通分の仕方を確認したり、<math>\frac{1}{2}</math>や<math>\frac{1}{3}</math>と同じ大きさの分数は何か、前時までの数直線を用いて確認したりするよう声をかける。</p>
<p>C: 通分をするとどんな数になるのかわからない。</p>	<p>☆ <math>\frac{5}{6}</math>Lは何が5つ分なのか考えてみるよう促す。</p>
<p>C: <math>\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{3}{6} + \frac{2}{6} = \frac{5}{6}</math>と、通分をして計算はできるが、なぜそうするのか説明できない。</p>	<p>☆ なぜ<math>\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{2}{5}</math>ではいけないのか考えるよう問いかける。</p>
<p>B: <math>\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{3}{6} + \frac{2}{6} = \frac{5}{6}</math> <math>\frac{1}{6}</math>が(3+2)個だから <math>\frac{5}{6}</math> L</p>	<p>☆ <math>\frac{3}{6} + \frac{2}{6}</math>は液量図ではどのように表せるか考えるよう声をかける。</p>
<p>A: <math>\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{3}{6} + \frac{2}{6} = \frac{5}{6}</math> L</p>	

以下のお役立ち情報もぜひご覧ください。



「効果的な机間指導」(令和2年6月) 「効果的な机間指導②」(令和2年12月) 「学ぶべきことを焦点化」(令和5年1月)



【参考】  
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料  
(国立教育政策研究所)

